

民間プール水泳授業拡大

プロによる指導効果期待

老朽化した学校プール修繕の代わりに

豊橋市

豊橋市立の小学校で、水泳の授業を民間事業者に委託する取り組みが拡大している。老朽化した学校プールを修繕する代わりに民間のプールを使うことで財政負担を抑えられるだけでなく、プロの水泳インストラクターによる指導効果も期待される。一方で、プールまで行き来する移動手段の確保が課題として浮上する。

(中嶋真吾)

市教委は市立の全小学校52校のうち、小と、新設したばかりの高根小を除く50

校に、民間プールを活用した水泳授業を数年以内に広げたい考え。
市教委の担当者は「学校と民間施設が協力できるようにお手伝いしたい」と話した。

市内では2018年度、鷹丘小が近隣の民間プールで水泳授業を開始。翌年度には飯村小も別の民間プールで試行的に始めた。その後、新型コロナウイルスの影響で2年続けて水泳授業は中止された。今年度は19校が民間プールなど11カ所で実施する。

市教委によると、これまでにインストラクターの指導で泳げる児童が増えたという。プロの指導方法を間近で見た教員の能力向上にも役立つという。屋外にある学校プールと異なり、屋内型の民間プールは天候や気温に左右されず授業ができるのも利点だ。

課題もある。民間プールまで離れているため、多くの小学校が児童の移動に貸し切りバスを利用している。コロナ禍が一時よりも落ち着き、社会経済活動が動き出す中で「バスの確保が大変になっている」と担当者は

市教委によると、民間プールまで離れているため、多くの小学校が児童の移動に貸し切りバスを利用している。コロナ禍が一時よりも落ち着き、社会経済活動が動き出す中で「バスの確保が大変になっている」と担当者は

市立小のプールは60年とされる耐用年数が近づき、修繕が必要になってきている。更新費を含めコストを比較すると、スイミングスクールに委託した方が安く済むとの試算に基づき、市教育委員会は民間活用を進めている。

市立小のプールは60年とされる耐用年数が近づき、修繕が必要になってきている。更新費を含めコストを比較すると、スイミングスクールに委託した方が安く済むとの試算に基づき、市教育委員会は民間活用を進めている。



インストラクターの指導を受ける児童（豊橋市西小鷹野4のグランドパシフィックスポーツ倶楽部で）